



小坪小だより

7月号

横浜市立小坪小学校

横浜市港南区港南台4-11-1 電話 832-0617

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

伝える 伝え合う

校長 芦垣 幸代

6月16日、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」港南区予選会が行われました。「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」は、横浜市内の小中学生の国際平和への意識を高めるために平成8年度に始まり、今年で30回目を迎えます。約5万人の横浜市内の小中学生が参加し、各校の代表が集まって各区予選会が行われます。本校でも、6年生がこのコンテストに参加し、学習した力を生かしながら、「国際平和のために、自分にできること」というテーマについて自分の思いをまとめていきました。その中で、本校の代表として高柳みずほさんが港南区予選会に参加し、スピーチを行いました。自分の経験を通して考えたことを堂々と伝えてくれました。「戦争の悲しみを繰り返さないために、戦争のことを伝え、受け継いでいきたい」という強い思いが込められたスピーチでした。戦争を体験された方の話をじかに聞く機会がどんどん減っていきます。私も、母によく話をしてもらいました。校内予選会でも、港南区予選会でも、スピーチを聞きながら、平和について自分ができることを改めて考えさせられました。

日々の学習や生活の中で、身のまわりの人、もの、ことと関わる（読んだり、聞いたり、やってみたりする）ことで、思いや考えが生まれます。そのことをまた、伝え合ったり、じっくりと対象と関わったりすることで、思いや考えが深まったり広がったりします。そうやって抱いた思いや考えを、「共に考えてほしい」「一緒にやってほしい」と思うとき、「伝えたい」という気持ちが生れます。そんな体験を大切に積み重ねていきたいと思っています。

誰もが尊重される未来

高柳 みずほ

戦争の悲しみを繰り返さないために、私たちにできることはたくさんあります。その中でも私が一番大切だと思っていることは、戦争のことを伝え、受け継いでいくことです。少しでも戦争のことを多くの人に伝えていくことで、周りの人たちにも戦争の恐ろしさ、二度とやってはいけないことを知ってもらうことができます。

私はひいおばあちゃんが残した言葉を、一言でも受け継いでいきたいです。1939年9月1日に始まった第二次世界大戦。世界で約四千万人以上の方が犠牲になりました。そして、1941年12月8日に始まった太平洋戦争。日本だけでも約三百十万人の方が犠牲になりました。当時の日本の人口で見ると、なんと23人に1人です。

私のひいおばあちゃんは、五年前、九十三歳のときに亡くなってしまいましたが、戦争を実際に体験しました。戦争について、ひいおばあちゃんは、私に一本のビデオを残していました。2015年に撮られたビデオで、一歳だった私の声も入っていました。ひいおばあちゃんが戦時中、学校に通っていた頃、学校に爆弾を落とされたそうです。その爆弾のせいで、隣のクラスの子が全員亡くなってしまいました。皆さんは、隣のクラスの子が突然いなくなってしまうことが想像できますか？私にはできません。大切な友達が一発の爆弾で、一瞬でなくなってしまうのです。多くの人を悲しませる戦争は、絶対に二度としてはいけないことだと改めて実感しました。ひいおばあちゃんは最後に、「あの時は生きるために必死だった。母も私もいて、あの時頑張ったことは間違っていないと思う。何度も恐ろしく辛い思いをしたけれど、今が幸せならいい」と言っていました。あの時にひいおばあちゃんが必死で生き抜いてくれたおかげで、今の私がいます。

確かに、戦争で勝利すると得られるものがあるため、絶対にしないということに反対の人もあるかもしれません。しかし、たくさんの人が犠牲になってしまいます。家族が犠牲になってしまうかもしれません。犠牲にはならなくても、戦争のことはずっと自分の心の中に残っているままです。

戦争を経験した人たちの声が消えていこうとしている今、想像もしたくない悲しみを二度と生まないために、ひいおばあちゃんが残してくれた言葉を胸に、誰もが尊重される未来を、私たちが繋げていかなければなりません。